

## 「新しい総合計画（素案）に関する説明会」結果

市町村名	名張市	開催場所	箕曲公民館
開催日	10月7日（火）	開催時間	19：30～21：15 （1時間45分）
参加者数	27名		
説明者	名張市長、企画財政部長、 企画財政政策室長 総合企画室長 他	【備考】	

1．開会（司会）【19：30】

2．あいさつ

- ・ 地区代表区長幹事
  
- ・ 市長【19：35～19：50】

3．出席者紹介（司会）

4．事項

- ・ 総合計画素案の概要説明（家里部長）【19：50～20：15】
  
- ・ 質疑【20：15～21：15】

Q（参加者）総合計画は今まで4年に1回ぐらい、選挙が近づくたびに出され、説明に20名ぐらい市の幹部が並んでいたように思う。それに比べると随分簡素化され、そういう点で高く評価している。今から市民の意見を取り入れて計画をつくっていく、市民が意見を言って、それが何らかのかたちで取り入れられる可能性があるということはいいことだと思う。しかし、内容は抽象的で一般市民にはわかりにくい。もっと具体的なものを出してほしい。

また、なばり新世紀創造プランでは、スクールカウンセラーを1名から3名にすること、大学院の設置、大学との共同研究などの目標があげられているが、それらの目標が現在どうなっているのかといったことを分析して、今後のまちづくりの参考にしていきたい。

前回の総合計画のパンフレットは市長の写真が大きすぎるので、パンフレット作成時にはもっとつつましく、できれば最終ページにご挨拶として載せるぐらいのほうがいい。

A（市長）総合計画は3年ごとにつくられていたのではないかとのことですが、そうではなく、3年ごとに見直しをしていたわけです。ローリングとって3年ごとの見直しで、目標に達していないものを盛り込んでいくというやり方でした。今度は3年後との目標をきちんと出し、それを必ず達成していきたいと思っています。これはまさにマニフェスト、市民の皆さんと市役所が約束をすることですから、達成するために全力でやっていくという総合計画にしたいと思っています。

パンフレットの顔写真はつつましやかにさせていただきたいと思います。

A (総合企画室長) なばり新世紀創造プランの進捗状況についても、すぐにはいきませんが、資料を公表させていただきます。

Q (参加者) それを基にして、どういう計画がダメだったのか、どうしても無理なのかということをご参考にしていただきたい。

A (総合企画室長) そのようなかたちで見直しの作業を進めています。大きな点では、財政見通しが完全に現状と異なっています。当時の財政見通しは、森首相のもとで進められていた経済再建プログラムに基づいて推計をしましたが、このまま続けていくとお手上げという状況です。さらに重点化し、あれかこれかを厳しく選択する、また大胆な改革を進めていかなければなりません。内容については、総花的に大きな事業をやっていこうというのではなく、現状を踏まえたものになっています。

Q (参加者) 数値目標というのは、この時期にこれをやるというのか、各項目に対してこの基準でやるというのか？

A (市長) どちらもいえます。例えばヘルパーの数、施設のベッド数などはきちんと数字を出さないといけませんし、おのずとこのレベルまでもっていきたいというものも出てきます。

Q (参加者) 大阪まで通勤しているが、名張駅の通勤ラッシュが気になる。夜遅くなるとバスがなくなる。そのためみんなが車でやってくる。駅前が混雑する。という悪循環になっている。これを観光客などが見たらどう思うか。東口は既に都市計画でできあがっているため、これを変えていくというのは大変だとは思いますが、名張の顔としての駅前整備が必要。

A (市長) 大阪経済の冷え込みにより、5年前に1万人以上いた大阪への通勤者が8千人ぐらいに減っています。その代わりに、上野市、伊賀町を中心とした伊賀地区への通勤者は4千人から6千人に増えています。通勤の時間帯に公共交通機関をとということですが、観光も含めて今検討しているのはコミュニティバスです。来年、1地区で試行し、それがうまくいけば、17年度にはいくつかの路線で、2台3台ではなく、かなりきめ細やかなコミュニティバスを走らせることができると思います。

名張駅の東側は整備され、あれ以上は難しい状況ですので、西側を計画に入れていこうと思いますので補足説明させます。

Q (参加者) コミュニティバスは低床バスか？

A (市長) 大きなものは考えていません。マイクロバスより小さなものを考えていますが、当然ワンステップバス(低床バスの意)でないといけないと思っています。

A (総合企画室長) 名張駅周辺整備は重要な課題だと思っています。9ページにまちの顔づくりプランをあげていますが、現実の話としてすぐに事業化できるかという点で難しく、少なくとも後期にならないと着手できません。西広場については、名張らしさを大切にしたい整備をしていきます。ただ、西側を整備してもいろいろな制約があり、一挙に交通問題が解決するわけではありません。むしろ東広場に問題があり、抜本的な改善になるかどうかはわからないが、中央西に駐車場を確保し、駅前に自家用車が集中しないようにすることを検討しています。

Q (参加者) 一新会議の席上で「計画、計画が大きすぎて、実行されないうちに消えてしまう」という意見が出されたが、計画した以上は計画倒れにならないようにしていただきたい。

リーディングプランの中で、地域づくり推進プランというものがあるが、箕曲地区としても、地域でいろいろ計画をし、実施の段階に入っている。いろいろ事業を考えたが、初年度である今年は、今までやってきた中で有意義なもの、残したいもの、これからも継続できるものやっいていこうということになった。その中で、その先に公民館を地域で運営管理するという計画があるということを知った。市の方針に従ってやらなければいけないと覚悟してはいるが、われわれが知らないうちに、市では主事の引き上げなど既に細かい数値目標を決めているということに戸惑っている。モデル地区を決めてやっいていくということだが、果たしてうまくいくのか？ また、箕曲公民館は古く、他の地域に比べ設備が悪い。地域で管理するならば、出発点で最低限の整備をしたうえで地域の管理にするという方向にもってっていただきたい。

A (市長) 計画が多すぎるというのはそのとおりですが、総合計画は行政計画の根幹をなす計画で一番基本となるものです。また、福祉の中でもいろいろな計画がありますが、それを集約したものとして地域福祉計画をつくっています。計画倒れにならないよう数値目標を入れ、それを達成するために全力を尽くすという方向でつくっています。

地域づくり委員会を立ち上げていただき、ありがたく思っています。地域づくりの事業をできる限り市がサポートしていきたく思います。これをプラットフォームにしていろいろな事業展開ができるような仕組みをつくっていきます。

公民館運営について数値目標を立てていますが、是が非でもというのではなく、体制の整った地域からお願いしたいと考えています。上野市では、全館市職員のOBがやっているようですが、それではダメだと思っています。まちづくりの基地となるような、弾力を持たせた運営を地域でしていただきたいと思っています。手を上げていただく地域がどんどん増えてきて喜んでいきます。

Q (参加者) 中央西に駐車場をつくるという話があったが、東町中川原線は国道 165 号につながったら終わりという話も聞いている。また、積田神社の前に信号ができ、糸川橋を渡って、県道ではあるが車 1 台通るのがやっとの道を通り抜けようとする車が増えている。坊垣の交差点も休日には数珠つながりで、駐車場ができ、使う人が増えればもっと混雑するのではないか。名張駅までの交通をどうするのかもっと考えていただきたい。

A (市長) 以前からお聞きしています。県とも協議します。

Q (参加者) 健康づくりのため、青蓮寺ダム周辺などにウォーキングエリアをつくっては？

A (市長) 今、地域福祉計画をつくっていますが、名張の福祉計画の特徴として介護予防、病気予防を強調していきたくと思っています。ウォーキング愛好者もかなりいますので、施設整備というものではありませんが、コース的なものをつくっていいと思っています。サイクリングコースなどの要望もあります。

Q (参加者) 土地利用構想の「土地利用の基本方針」は具体的にはどういうことか？

A (総合企画室長) 概要版ですので、ここでは具体的に書いていません。冊子になった土地

利用マスタープランというものがあり、それを策定するときの基本方針です。傾斜や土壌など土地の属性を重視した事業をやっていこう、また良好な地域環境をつくるため、みんなで話し合いながらまちづくりをしていこうという考え方です。詳しくは土地利用マスタープランをご覧くださいと思います。

Q (参加者) 福祉、人の幸せという部分の数値目標のイメージがわからない。ひとつひとつの積み上げが数値目標なのか、大きなイメージがあつての数値目標なのか。

A (市長) 狭義の福祉の数値目標はきちんとしています、おっしゃった意味の福祉は数値目標の設定も評価も難しく、評価のしかたは暗中模索です。これを行っている自治体は少なく、国もやっていません。なぜなら住民満足度の評価になるため、その時のそのかたの状況によっても変わってくるので、それを客観的に表すことは難しいことです。明解なお答えはできませんが、名張市版を考えています。住民満足度をいかに上げて行くかということで、すべての計画はなされていますので、最終はそこに行かなければならないと思っています。

イメージとしては、自発的な活動をどうサポートしていくかという方向に、これからの行政は転換していかなければならないと考えています。こんな事業をするから補助金を出すというのでは、住民満足度は上がらないと思います。

Q (参加者) 身近な問題でもよいとのことだが、その意見はどこに出せばよいのか？

A (司会者) 概要版の裏面にも書いていますが、10月20日までパブリックコメントを募集していますので、総合計画に関するご意見をいただきたいと思います。

Q (参加者) 身のまわりで、こんなことに困っているという内容でもよいのか。

A (市長) そういうわけではありませんが、それはこちらで仕分けさせていただきます。

Q (参加者) 商業者、農業者、サラリーマンなど働く者についてあまり触れられていない。働く場所も少なく、市としてはどう考えているのか。

A (市長) 名張市は暮らしやすさを特化していきたいと考えています。名張は土地が高く2次産業の誘致は非常に難しい状況です。しかし、福祉、医療、情報などの分野では雇用が増えていますので、これを強化していきたいと考えています。大型店の売り場面積は津よりも名張の方が大きい状況です。農業は地産地消を進めていきたいと思ます。

A (総合企画室長) 産業としての商業だけをやっていくというのでは太刀打ちできず、まちづくりと一体になって商業振興を考えていかなければならない状況です。農業も農業としてだけでなく、むしろ農地、地域を守っていくといった生活環境、また農村の多面的な機能に着目して、地域づくりと一体的に考えていかなければならないと思ますので、ご意見、ご指導をいただければと思います。

A (市長) 旧町のまちづくり委員会と商工会議所が共同でいろいろなことをしようとしているようです。

Q (参加者) 旧町のこと口に出す必要はないが、寂れていくと名張市民として寂しいと思う。農村も地産地消とはいうものの、安い野菜が外から入ってくると負けてしまう。消毒していないほうがいいと言っても見た目のきれいなものいいという人は消毒したものを買う。理想どおりにはいかないが、産業の振興について今後も市の施策の

中に入れていっていただきたい。

5 . 閉会